

上田地域

区分 (事業認可名称)		事業名	認可年月日	認可番号		着工年月	竣工年月	事業費 (千円)	目標 年次	基本計画			
										給水人口 (人)	一人一日 最大給水量 (ℓ)	一日 最大給水量 (m ³)	一日 平均給水量 (m ³)
上	上田上水道	創 設	T9.07.10	内務省8長衛 第93号		T9.07	T12.01	850	-	60,000	97	3,880	-
		第1次拡張	S25.11.30	厚生省長衛 第203号		S25.11	S28.05	55,000	S40	60,700	300	18,000	-
		第2次拡張	S37.03.31	厚生省長環 第119号		S37.03	S38.03	15,800	S48	63,700	300	18,660	-
		第3次拡張	S38.12.26	厚生省収環 第502号		S39.04	S42.03	200,000	S59	66,000	405	26,720	-
		第3次変更(1)	S40.12.06	厚生省環 第828号		S40.04	S47.03	865,500	S59	103,000	480	49,500	-
		第4次拡張	S47.03.31	厚生省衛 第276号		S47.04	S52.03	545,000	S61	107,000	600	64,200	-
		第5次拡張	S53.03.30	厚生省衛 第215号		S53.04	S53.07	18,000	S65	101,000	641	64,700	-
		第6次拡張	H10.07.14	厚生省収生衛 第921号		-	H24.03	9,200,000	H23	113,000	580	65,500	37,060
		第7次拡張	H29.03.31	厚生省発生食 0331第21号		H29.04	H38.03	10,395,732	H37	135,000	347	57,600	46,900
田	(岩清水簡易水道) H29.3.31 上田上水道に統合	創 設	T14.06.26	-	-	-	-	-	-	360	139	50	31
		廃 止	H29.03.31										

丸子地域

区分 (事業認可名称)		事業名	認可年月日	認可番号	着工年月	竣工年月	事業費 (千円)	目標 年次	基本計画				
									給水人口 (人)	一人一日 最大給水量 (ℓ)	一日 最大給水量 (m ³)	一日 平均給水量 (m ³)	
丸	(丸子上水道) H29.3.31 上田上水道に統合	創 設	S32.12.09	厚生省長衛 第969号	S33.04	S35.08	150,000	S47	24,730	234	5,777	-	
		第1回変更	S35.03.31	厚生省長衛 第285号	S35.09	S36.08	203,000	S47	24,730	234	5,777	-	
		第1次拡張	S37.12.28	厚生省長環 第428号	S38.09	S39.05	13,337	S47	24,730	234	5,777	-	
		第2次拡張	S48.03.31	厚生省長環 第303号	S48.09	S53.03	860,000	S60	27,000	563	15,200	-	
		第1回変更	H1.09.30	長野県指令 元号	H2.09	H3.03	85,000	H15	27,000	563	15,200	-	
		第2回変更	H2.08.31	長野県指令 元号	H3.09	S37.07	700,000	H15	27,000	563	15,200	9,773	
		廃 止	H29.03.31										
		創 設	S28.07.16	-	-	-	S29.03	S38	1,800	150	270	75	
	(深山簡易水道) H29.3.31 上田上水道に統合	変 更	-	-	-	-	-	-	-	-	360	-	
		廃 止	H29.03.31										
子	(郷仕川原簡易水道)	創 設	S30.03.30	-	-	-	S30.05	S40	200	150	30	-	
		変 更	-	-	-	-	-	-	-	-	50	-	
		廃 止	S48.06.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	(藤原田簡易水道)	創 設	S35.07.26	-	-	-	S30.05	6,720	S45	670	150	100.5	-
		変 更	S38.04.19	長野県指令 38環	第55-18号	-	-	-	870	-	-	-	-
		廃 止	S48.06.01										
	(須川湖(ハイランド)堰 用水道)	創 設	S47.01.18	-	-	-	S47.10	14,475	S57	670	200	134	-
		廃 止	S48.06.01										

武石地域

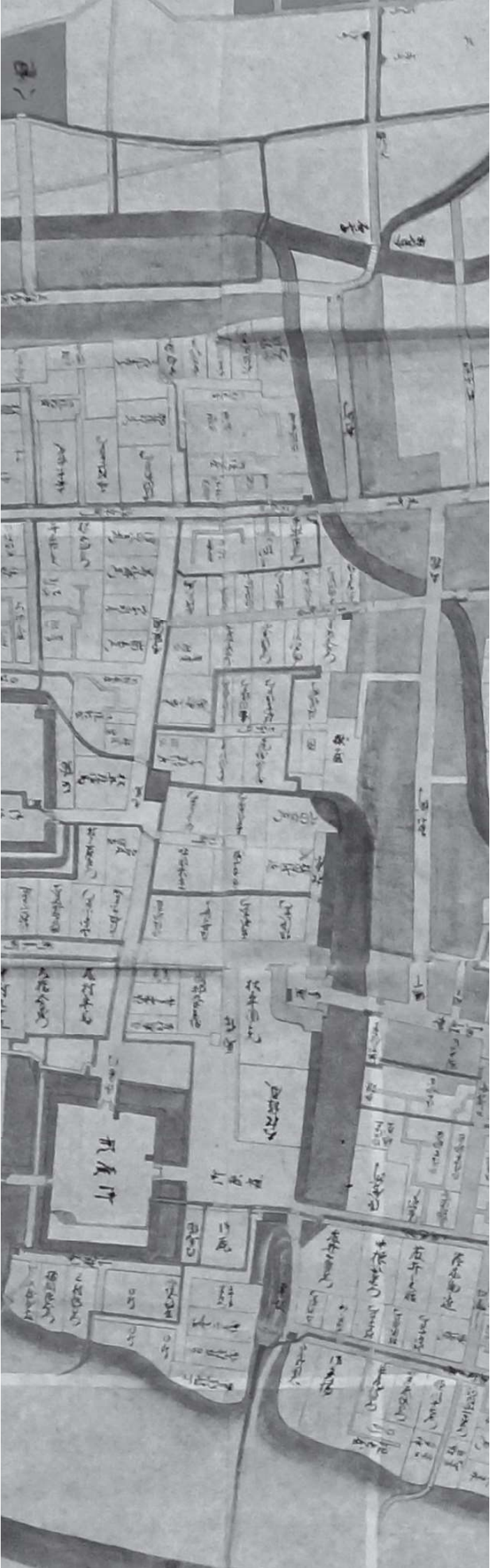
区分 (事業認可名称)		事業名	認可年月日	認可番号	着工年月	竣工年月	事業費 (千円)	目標 年次	基本計画				
									給水人口 (人)	一人一日 最大給水量 (ℓ)	一日 最大給水量 (m ³)	一日 平均給水量 (m ³)	
武	(武石簡易水道) H29.3.31 上田上水道に統合	創 設	S42.01.30	長野県指令 2環	第12-6号	-	S42.03	14,000	S53	4,300	214	1,178	-
		第1次変更	S55.06.12	長野県指令 59簡易水	第3-13号	-	S51.04	82,079	S59	4,300	329	1,415	-
		第2次変更	H25.07.29	長野県指令 元号	第160-2号	H25.08	H28.03	264,328	H33	3,930	489	1,920	-
		廃 止	H25.03.31										
		創 設	S52.03.31	長野県指令 2環水	第8-27号	S52.04	S52.07	-	S61	200	250	88	-
石	(餅下ヶ城簡易水道) H29.3.31 上田上水道に統合	第1次変更	S61.02.28	長野県指令 6環水	第1-19号	S60.12	S62.03	-	H6	340	235	76.9	-
		第2次変更	S62.07.22	長野県指令 元号	第51-5号	S62.06	H4.03	294,013	H8	1,540	203	312.8	-
		第3次変更	H3.11.11	長野県指令 元号	第21-44号	H3.11	H4.03	66,670	H12	2,100	253	531	-
		第4次変更	H6.03.30	長野県指令 5環	第 号	H5.05	H5.09	134,491	H15	2,100	253	531	-
		廃 止	H29.03.31										



武石地域 唐沢水源地

真田地域

区分 (事業認可名称)		事業名	認可年月日	認可番号	着工年月	竣工年月	事業費 (千円)	目標 年次	基本計画				
									給水人口 (人)	一人一日 最大給水量 (ℓ)	一日 最大給水量 (m ³)	一日 平均給水量 (m ³)	
真	(菅平高原上水道) H27.3.25 真田上水道に統合	創 設	S42.03.31	長野県指令 42環	第12-2号	S42.04	S45.03	200,000	S51	9,000	411	3,700	-
		第1回変更	H7.12.28	長野県指令 7環	第28-1号	H7.07	H8.03	963,085	H21	9,000	411	3,700	-
		廃 止	H27.03.25										
	(宮浦簡易水道) H27.3.25 真田上水道に統合	創 設	S30.07.15	長野県指令 30環	第356号	S30.07	S30.08	870	S39	170	150	25.5	-
		廃 止	H27.03.25										
	(大日向簡易水道) H27.3.25 真田上水道に統合	創 設	S33.05.23	長野県指令 33環	第70-2号	S33.11	S34.08	5,060	S42	800	150	120.0	-
		廃 止	H27.03.25										
	(長中央簡易水道) H27.3.25 真田上水道に統合	創 設	S33.05.23	長野県指令 33環	第70号	S33.08	S34.03	14,501	S34	3,000	214	642	-
		廃 止	H27.03.25										
	(大良簡易水道) H27.3.25 真田上水道に統合	創 設	S30.11.05	長野県指令 30環	第684号	S30.12	S31.03	940	S39	110	150	16.5	-
		廃 止	H27.03.25										
	(穴沢簡易水道) S62.3.31 磐前中央簡易水に統合	創 設	S26.06.28	長野県指令 26環	第912号	S26.08	S27.04	1,808	S35	250	150	37.5	-
		創 設	S33.12.01	長野県指令 33環	第283号	S34.04	S35.10	16,230	S44	3,200	150	480	-
		第1回変更	S62.03.31	長野県指令 41環	第133-26号	S62.06	S62.12	46,200	H6	2,500	220	550.2	-
	(磐前中央簡易水道) H27.3.25 真田上水道に統合	第2回変更	H25.07.29	長野県指令 25環	第160-1号	H25.08	H31.03	274,275	H30	1,800	506	910.0	-
		廃 止	H27.03.25										
	(本原簡易水道) H27.3.25 真田上水道に統合	創 設	S30.07.15	長野県指令 30環	第356号	S30.07	S30.08	870	S39	170	150	25.5	-
		第1次拡張	H7.06.26	長野県指令 7環	第29-3号	H7.06	H17.03	830,000	H16	4,700	383	1,800	-
	(磐前西部簡易水道) 中継雨水・龍井沢雨水・松井新田排水を 導水統合 H27.3.25 真田上水道に統合	創 設	S32.06.10	長野県指令 32環	-	-	-	-	S41	640	150	96	-
		創 設	S35.08.03	長野県指令 35環	-	-	-	-	S44	690	150	103.5	-
		創 設	S35.12.20	長野県指令 35環	-	-	-	-	S44	130	150	19.5	-
		第1回変更	H4.05.25	長野県指令 4環	第15-8号	H6.09	H8.03	648,000	H13	800	396	317	-
		廃 止	H27.03.25										
田	(三島平専用水道) 飲料水供給施設を廃止し、専用水道とする H27.3.25 真田上水道に統合	創 設	H2.03.20	-	-	-	-	-	H11	98	250	24.5	-
		第1回変更	H15.03.24	14農上	第127-2号	-	H15.04	-	H24	98	250	24.5	-
		廃 止	H27.03.25										
	(真田上水道) H29.3.31 上田上水道に統合	統合創設	H27.03.25	長野県指令 26水大	第34-13号	H27.04	R6.03	1,978,671	H36	10,400	796	8,000	4,900
		廃 止	H29.03.31										



第 1 章 上田市の水道前史

(江戸時代～明治45年)
1912年

明治・大正・昭和にかけて、用水や井戸、水道の布設に多くの先人が苦しみ、努力してきた様子が既刊の「上田市水道誌(続編) 上水道50年のあゆみ」「上田市水道誌(続編) 上水道70年のあゆみ」に詳述されている。

第1章～第8章では、その中の一部を抜粋しながら、今日に至るまでの水道・用水事情について紹介する。

1-1 城下町の用水

1-2 城下町の井戸水

トピックス：真田井戸の伝説

1-3 当時の矢出沢川、蛭沢川、黄金沢川

1-4 水道の始まり(保命水)

1-5 国分の水道

1-6 笠原製糸工場の水道

1-1 城下町の用水

上田城周辺の水は、城の堀や町民の飲料、日用水、防火用水として必要であり、城下町時代から河川や用水の改修が行われていたと考えられる。

上田の町を流れる代表的な川は、矢出沢川、蛭沢川、黄金沢川3つであり、特に矢出沢川と蛭沢川の水は町々の用水とされ、日常用だけでなく、城の堀にも導入されていた。

これらの用水は城下町の生命線であるため、敵に分からないようすべて隠し堰としていたようである。

また、坂井田堰、常田堰などの灌漑用水は川から各地に分水し、これらの堰は上流では飲料にも利用されたというが、ほとんどは洗いものなどの日常用水や防火用水としても使われていた。

秋和にも街道沿いに用水堰として、矢出沢川から分水した秋和堰が通っており、この水を朝早く汲んで飲料としたり、造り酒屋も使ったと言われている。

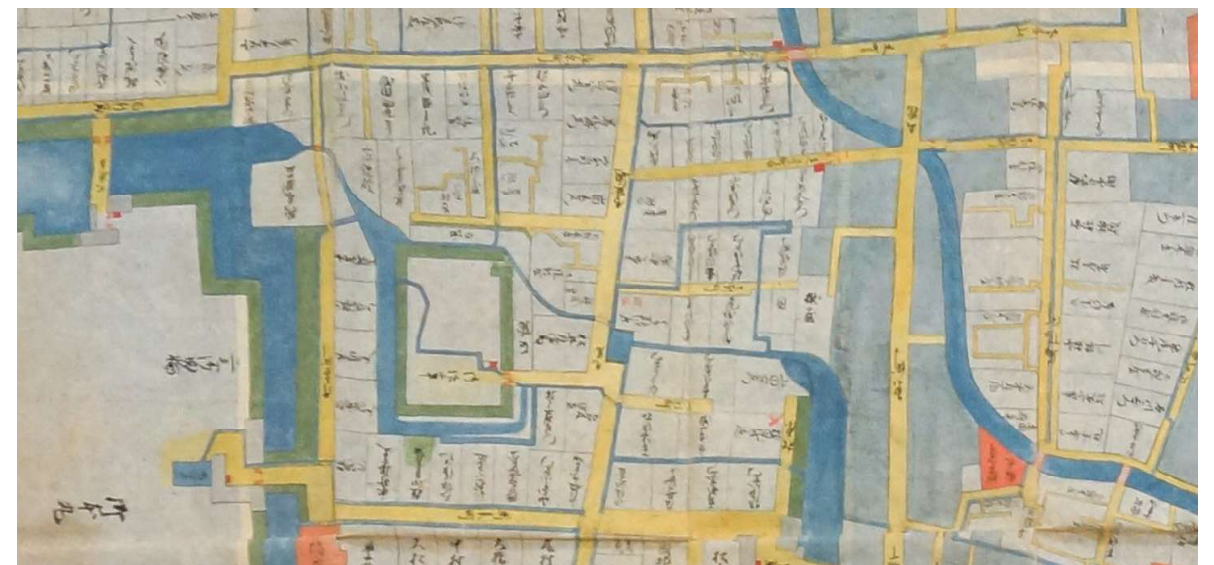


染屋浄水場の水道資料館に展示されている江戸時代の消火用手押しポンプ。防火用水としても水は必要とされた。



弘化4年(1847年)上田城下用水引渡し絵図(上田市立博物館所蔵)

弘化4年の善光寺地震で井戸が枯れてしまい、用水を整備した時の図(河川名を一部加筆)



かなり詳細に渡って水路が描かれており、用水の引き込みが町の暮らしにいかに重要であったかが伺える。

1-2 上田城下町の井戸水

黄金沢扇状地末端部に当たる大輪寺から海禅寺、呈蓮寺に及ぶ新田地区は、黄金沢の伏流水が地上に表われる場所で、地表に湧き出すほど水量が豊富であったため、井戸を深く掘らなくても、水質の良い水が汲める地域であった。

また、大神宮境内にも良い井戸があり、この井戸にも伏流水が湧き出しており水面まで浅く、柄杓で汲むことが可能であったことから、付近の人々だけでなく造り酒屋もここまで汲みに来たという。

また、明治天皇御巡幸の際の御膳水に選ばれた大輪寺



上田大神宮の長命水

門前の井戸水は、城下町の酒屋をはじめ、茶用の水はこれに限るといわれ、住民が遠方からも汲みに来たそうである。

昭和初期、上田温泉電軌線の北東線建設時には、この井戸の近くを通る計画もあったが、この名井戸を潰さないように迂回したとの話もある。

この他、川原柳、房山、鍛冶町地区の旧警察署にあった井戸、あるいは馬場町通りの柳の井戸、本陽寺内の湧水の浅井戸、また踏入から常田地区の大神宮社、緑町の井戸も良水で名高かったと言われている。



大輪寺門前の明治天皇御膳水

Topics

トピックス



真田井戸の伝説

本丸の井戸は井戸底まで約17m、水深は4mあり真田井戸と称された。上田城下町の中で最も深く、上田七不思議の一つに数えられる「太郎山に抜けることができる」という伝説を生んだ。藩時代の広庭の井戸（現在の上田商工会議所の南側に存在した深井戸）が井戸替えをして濁ると、この井戸も濁るといわれ、地下水の流動方向を物語っている。



1-3

やでさわがわ ひるさわがわ こがねさわがわ 当時の矢出沢川、蛭沢川、黄金沢川

矢出沢川は現在ほど川床が低くなく容易に下ることができたため、これを利用して紺屋(こうや：染物屋)が多く営まれ、水車にも利用されていた。

蛭沢川は古里地区からの落水と、常田池からの水が集めた川で、上田の街中を流れ、人々の日常用水・防火用水として使われてきた。

矢出沢川と蛭沢川の落ち合った今の北大手付近は湿地帯で、旧河道に沿って橋が架けられていた。この二つの川は、真田の上田築城以降は、城濠の用水としての役割も持ってきた。

また、太郎山地から流下する黄金沢川は、太郎山と東太郎山に二分するほど深く浸食しているが、水量自体は少なく、上流の山口集落の用水として使用されていたため、普段は下流にほとんど水が流れず、豪雨の際だけ鉄砲水となって害を与えていたようである。

柳町北部は、矢出沢川や黄金沢の鉄砲水でしばしば災害を受けたことが記録に残っている。大星神社から南方新田に及ぶ黄金沢の川筋は鉄砲馬場といわれ、藩時代は乗馬の直線コースにも利用されていたようである。

このように、地表水としては有益ではなかった黄金沢川だったが、地下伏流水は扇状地末端に湧水し、飲料水として上田町民には重要な役目を果たした。この水利権を巡り、争う記録も町の歴史として残っている。

長野県北第拾壺大区図

明治12年(1879)

上田市立図書館所蔵(一部拡大・加筆)

右図は明治12年(1879)年に描かれた上田地区の地図で、3つの川も現在とほぼ同じ流路で描かれている。

一方、右上には神川も描かれ、常田堰の分水まで克明に描かれている。

*明治時代に長野県は区制を施行し、上田地区は北第拾壺大区となり、6つの小区に分かれていた。一小区(傍陽邑)・二小区(上野邑・住吉邑・古里邑)・三小区(国分邑・常入邑)・四小区(上田町)・五小区(常磐城邑)・六小区(秋和邑・上塩尻邑・下塩尻邑)



黄金沢川

矢出沢川

柳町

紺屋町

蛭沢川

加賀川(神川)

長堅縣

第拾

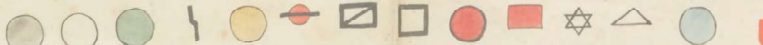
以下

旧庄
戸数

全全

全全

全全



北第大庄
旗

北國任大庄



1-4 水道の始まり(保命水)

柳町にある「保命水」は、地域住民により造られた簡易な水道であり上田の飲料用水道として最も古く、現在まで存続している最も有名なものである。この地区に飲料水道ができたのは、黄金沢の伏流水が地表に湧き出す場所の南隣に位置していることから、この伏流水を自然流下で取水することが可能であったためと考えられている。創設されたのは明治14年で、その水源は海禅寺門前の湧水で、そこから南下し矢出沢川を渡って、旧里道から柳町の北国街道の曲り角に水槽を設けて、「保命水」と命名したものであった。

水源から水槽まで管路は木管を使用していたが、明治41年には管路の途中で故障が生じ大改修した記録がある。

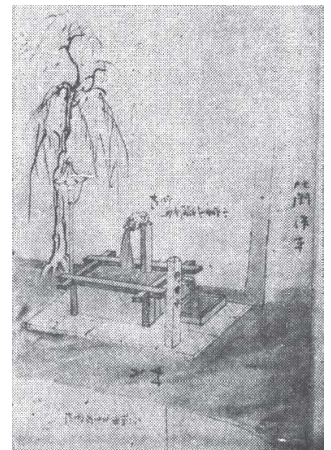
1. 水源海禅寺大門の西と北の湧水を集め
2. 送水は大神宮前の新道を直線的に300mと短くし、途中3か所に水箱(タンク)を設け、送水管は直径5寸の土管とするが神宮橋下は鉄管とする。
3. 予算160円、戸数割一戸30銭宛と残りは等級割とし、時に銀行から借り入れて着工(実際は6円50銭予算超過した)
4. 同時に海禅寺とは正式契約書を取りかわし永年貢を年々3円支払うこと、なお余水あれば他にゆずること

この記録のように、木管から土管に変更し、矢出沢川を渡る橋の下には鉄管を添架するなどの改修を行うが、度々修理が必要とされ、開設以降、累計1,493.5円の巨費を費やしたと記録にある。

大正7年には、製糸会

社にも水を供給することとなり、大神宮の水源地からも水を送る必要があったため、水源地を買収し、大正8年には大神宮前にタンクを新設する。その後大正12年には、上田市の水道が創設されるのであるが、柳町の住民はしばらく保命水を使っていたという。

この他、大神宮内の湧水を水源とした上紺屋町の水道、あるいは本陽寺北側の墓地の一角にある湧水を水源とした馬場町の水道の記録もある。



創設当時の保命水